

## 拠点大学の概要及び採択理由

機 関 名 東 京 大 学

### [国際化拠点の構想の概要]

本学は、これまで東京大学憲章に基づき、研究、教育、社会連携の国際化を進めてきた。このたびの国際化拠点整備事業により、本学が現在、策定を進めている次期中期目標・中期計画および本学の国際化推進長期構想に構想されている本学の国際化の理念と方向性にかなう具体的事業をさらに進め、大学全体としてより均衡のとれた国際化を実現することをめざし、具体的方策としては、次の三つの事業を展開する。

#### 1. 英語による授業のみで学位の取得できるコースの新設

①学部教育においては、教養学部前期課程として、国際科類を設置し、日本及び東アジアの社会の理解を育み、さらに現代社会の抱える環境・エネルギー問題などの理解に必要な国際的かつ文理融合的で学際的な教養教育を行う。教養学部後期課程としては、専門的教養教育のためのa.学際日本研究コースとb.環境・エネルギーコースを開設する。また、本事業終了後の平成26年以降には、理学部国際広域理学コースの開設することも併せて検討する。②大学院教育においては、サステナビリティ学教育プログラム、国際バイオエンジニアリング英語コース、国際農業開発学プログラムなど、社会科学、理学、工学、医学、農学の広い分野で総計12のコースを平成22年度から順次開設する。学部、大学院ともにAO入試型の書類選考を行い、秋季入学を行えるようにする。③学位プログラムの他にも、本学の短期交換留学制度(AIKOM)の拡充及び国際研究型大学連合(IARU)、環太平洋大学協会(APRU)、東アジア研究型大学協会(AEARU)等の国際的大学連合との連携によるサマープログラムの拡充を図る。

#### 2. 留学生の受入のための環境整備

①受入重点国 本学は、北京代表所においてTV会議システムによる入学のための面接、留学生招へいのための広報活動などを既に行っているが、今後有望とみられるインドとベトナムを留学生受入重点国とし、ハイデラバードおよびハノイにも海外拠点を開設し、他大学とも協力しながら優秀な留学生の確保に努める。欧米諸国からの留学生受入についても、本年4月に開設された日米研究インスティテュートやその他の準政府機関の海外拠点などと連携し留学生の確保につとめる。②留学生の受入・支援の計画 a.サービス提供機関として国際交流センターを設置し、本郷、駒場、柏の3キャンパスにそれぞれ窓口を設けることにより、出入国支援、宿舍紹介、経済的支援、日本語教育、就職支援、その他のカウンセリングなどのサービス提供を統合的に行う。b.本部・部局事務局において、留学生・国際担当窓口以外でも留学生や研究者への対応が可能となるような整備をおこなう。英語その他の外国語に対応可能な事務職員を増加させるため、語学研修や国際業務研修を実施する。c.既に実施している中国、インド等の留学生のための奨学金プログラムを拡充する。d.留学生・外国人研究者のための宿舍の整備をさらに進める。

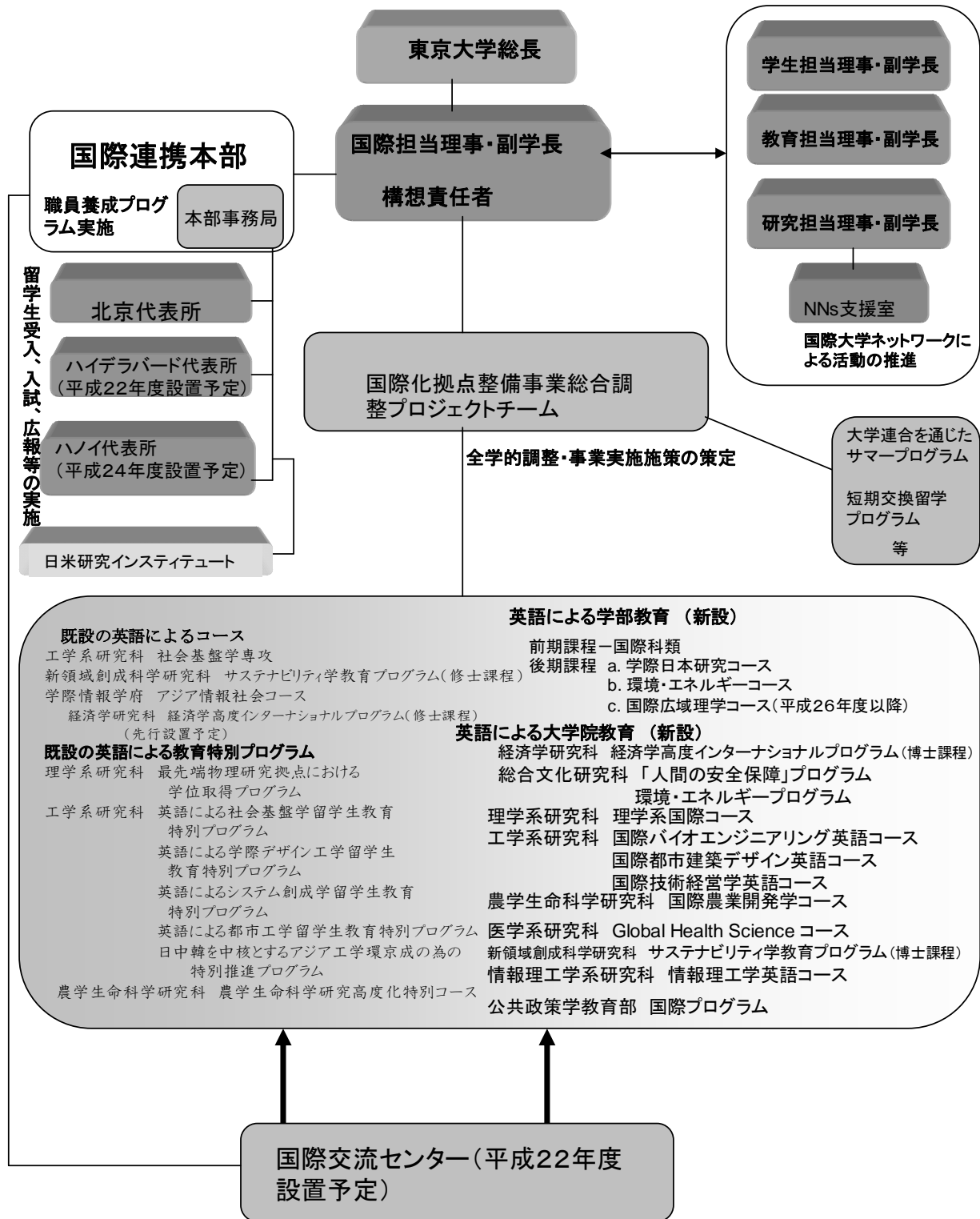
#### 3. 大学の国際化

本事業は、総長のリーダーシップのもと、国際担当理事・副学長が教育担当理事・副学長、学生担当理事・副学長、研究担当理事と密接に連携し、「国際化拠点整備事業総合調整プロジェクトチーム」とともに、その計画・調整・実施にあたる。また、同プロジェクトチームは、本学の他の教育活動、国際活動との整合性を確保するため、教育運営委員会ならびに国際委員会にその活動の報告をするとともに、必要な承認を得ることとする。また、実務面で上記の国際交流センターとも密接な連携をとる。事務体制の国際化については、国際連携本部が中心となり、語学研修や国際実務研修、海外研修などを実施し国際業務への対応能力のある事務職員・技術職員の育成にあたる。学内文書およびウェブサイトの多言語化についても、さらに充実させる。海外での教育研究活動を経験した教員や、海外の大学で学位を取得した教員の統計や動向調査についても国際連携本部が行う。日本人学生についても、国際的大学連合が行うサマープログラムやその他交換プログラムへの参加を促進するなどして、国際的経験の場をより多く提供することを目指す。

以上の三つの事業の他、本学は、本事業の推進事務局を務め、海外拠点の共同運営や優秀な留学生招へいのための共同活動、その他の戦略的の事業展開を推進する。さらに、国際的大学ネットワークを利用し、教育面においては、大学教育の質の保証や、アジア版エラスムスのような学生の国を超えた流動性を高める方策も検討する。研究面においては、世界に存在する研究ネットワークをつなげ、知の構造化のためのネットワーク(Network of Networks: NNS)を構築し、G8大学サミットを支援するとともに、本学がそのハブとなることを目指す。

**【東京大学】**

国際化拠点の概念図(海外における留学を促進するための取組、国内における留学生の受入のための取組について、構想の達成目標と取組計画をわかりやすく図示してください。)



留学生・外国人研究者受入支援  
日本人学生、研究者派遣支援

大 学 名	東京大学
-------	------

〔採択理由〕

東京大学の国際化に関する優れた実績やこれまでの取組は高く評価でき、今後の留学生の受入の更なる充実が大いに期待できる。また、国際化拠点の整備のための取組は、大学としての国際化に関する戦略目標に明確に位置付けられ、大学の規模、機能等を踏まえた着実なものとなっており、本事業の趣旨に十分適合しているとともに、その実現性も高い。国際競争力の高い分野における教育研究の実績を活用した構想には、我が国を代表する国際化拠点としての成果と今後の展開が十分に期待できる。

＜特に優れた点、期待できる点、留意すべき点＞

- ・数多くの英語による授業のみで学位が取得できるコースを開設する計画があり、その多くは当該大学が世界に誇る分野となっている。
- ・国際交流センターの新設によるサービスの一元化、ボランティアによる留学生支援、奨学金・授業料免除などの経済的支援の充実は、優れた点として評価できる。
- ・計画に無理がなく実現可能性が高いと思われるが、外国人教員の増員、交流協定に基づく交換留学の促進などの取組について更なる充実が望まれる。